

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言… P1 2023年度定時社員総会の開催報告… P1, P2
- 【独自調査】ELV引取台数の推移を様々なグラフから読み解く!!(中編)… P3, P4, P5
- 自動車リサイクル士講習会、申込期限迫る!!/各ブロック会議の開催結果(北海道・沖縄)… P6
- 2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業5月出荷状況/5月新車販売・使用済自動車発生台数… P7
- 鉄スクラップ最新情報… P8 □行事予定・お知らせ/編集後記… P9

vol. **172**

2023年度定時社員総会の開催報告

01

2023年6月15日(木)、鉄鋼会館(東京都中央区)にて、2023年度定時社員総会が対面参加とWEB参加のハイブリッド形式で開催されました。また、総会後には来賓の方々をお招きして4年振りとなる懇親会も開催されました。

【定時社員総会】

社員の過半数の出席により本社員総会は成立し、第1号議案「第18期事業報告・収支報告」、第2号議案「第19期事業報告案・収支報告案」、第3号議案「理事選任」、全ての議案が承認多数で可決されました。なお、第3号議案の理事選任については機構の奥野事務局長が新たに理事として選任されました。



【意見交換の様子】

【意見交換】

機構や我々を取り巻く解体業界について、社員や会員の方々から事前に募ったご意見・ご要望と、それに対する機構の見解・回答をご紹介しました。リサイクルシステム内の移動報告期間や中古車輸出業者へのリサイクル料金還付、無許可解体業者への業界としての対応強化や外国人の許可業者、インストラクター制度についてなど多くの意見が寄せられました。

巻頭言

お陰様をもちまして当機構の社員総会を無事に終えることができました。関係者の皆さまにおいては改めて感謝申し上げる次第です。今年の懇親会には100名を越える大勢の業界関係者に集っていただき嬉しく思うと共に、多くの組織団体の皆さまに支えられて当機構の活動が潤滑になされていることを改めて感じることができました。

今期も幾多の計画が掲げられましたが、これも会員はもとより各方面の皆さまとの連携が有って初めて実行が可能であることは自明の理です。今号の総会特集で後援くださっている皆さまの思いが上手く伝わってくれば幸いです。

〈広報部会 永田 則男〉

《編集・発行責任者》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
H P: http://www.elv.or.jp/

2023年度 理事・監事体制

氏名	役職	氏名	役職
【理事・常任役員】		中村 昌徳	中国・四国ブロック長
酒井 康雄	代表理事	森田 光弘	九州ブロック長
永田 則男	副代表理事	松田 和生	沖縄ブロック長
石井 浩道	副代表理事	【理事・部会長】	
木内 雅之	副代表理事	吉岡 篤史	未来部会長
埜村 岳史	副代表理事	田村 幸男	広報部会長
平地 健	ブロック長会議長・東北ブロック長	佐々木 健二	リサイクル技術部会長
【理事・ブロック長】		【理事・事務局長】	
菅野 康博	北海道ブロック長	奥野 孝樹	事務局長（新任）
有原 良	関東ブロック長	【監事】	
光山 広志	中部北陸ブロック長	石上 剛	監事
赤松 健一	近畿ブロック長	大橋 岳彦	監事

【懇親会】

こちら4年ぶりとなる懇親会となりました。ご来賓の方々を代表して、経済産業省の金谷室長、環境省の坂口室長補佐、自動車リサイクル促進センターの阿部専務理事にご挨拶をいただき、日本自動車工業会リサイクル・廃棄物部会長及び自動車再資源化協力機構代表理事の嶋村様より乾杯のご発声を賜りました。懇親会には94名(49団体)ものご来賓の皆様にお越しいただき、会員の皆様を含め、総勢140名の皆様が一堂に会する形となり、終始明るく賑やかでお話の尽きない会となりました。



【金谷室長】



【坂口室長補佐】



【阿部専務理事】



【嶋村部会長・代表理事】



【酒井代表理事】



【石井副代表理事】

【独自調査】ELV引取台数の推移を 様々なグラフから読み解く!! (中編)

02

■前編ダイジェスト

【新車販売台数】

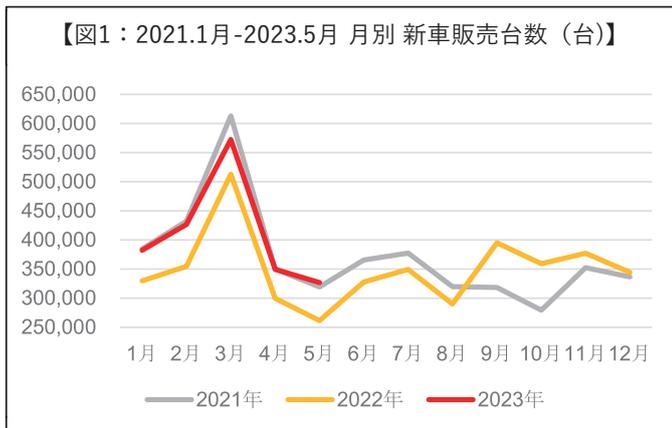
2019年と比較して…右肩下がりも、**2023年は回復傾向が見られる。** (図1)

【ELV引取台数】

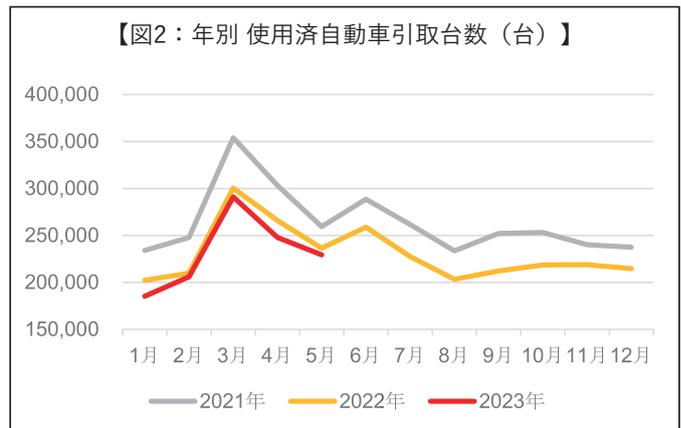
2019年と比較して…2022年は2019年以降最も減少となっており、2023年の1月～4月はその2022年よりも更に落ち込んでいる。 (図2)

【中古車の輸出台数】

2019年と比較して…2020年は23万台程度落ち込んだが、以降はほぼ2019年と同じ水準となっており、**海外に中古車が流れている**ということは言い難い。また、輸出先は2021、2022年にロシアが2位と大差をつけて1位となっていた。



【出典】一般社団法人 日本自動車販売協会連合会



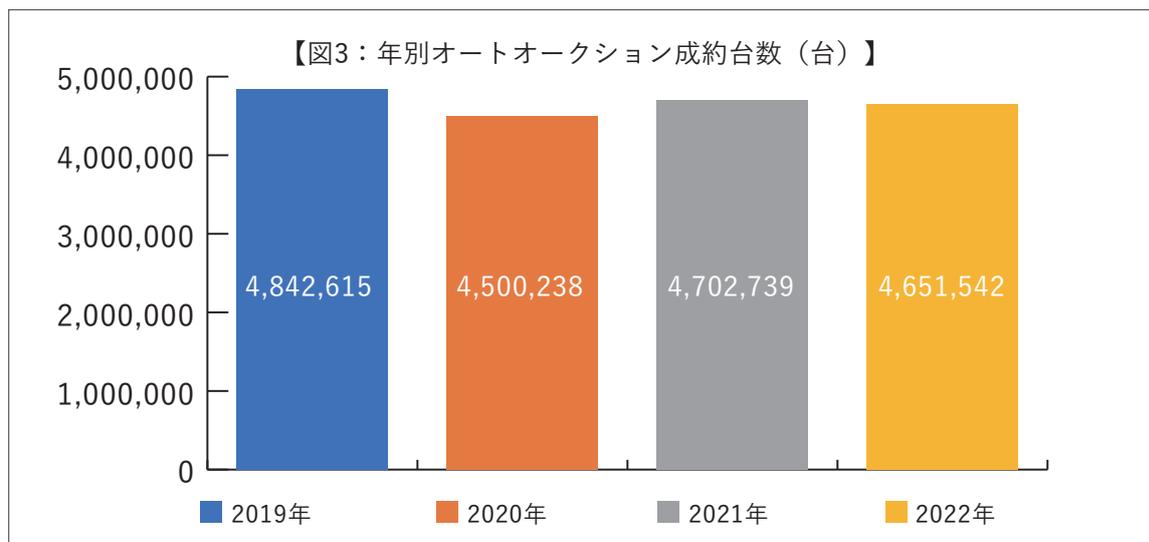
【出典】公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

■前編 (Vol.171) はこちらから▶ <https://www.elv.or.jp/23-53-0.html>

【ステップ④：オークション成約台数の推移】

前回の記事では中古車の輸出台数は増えていないことが分かりました。

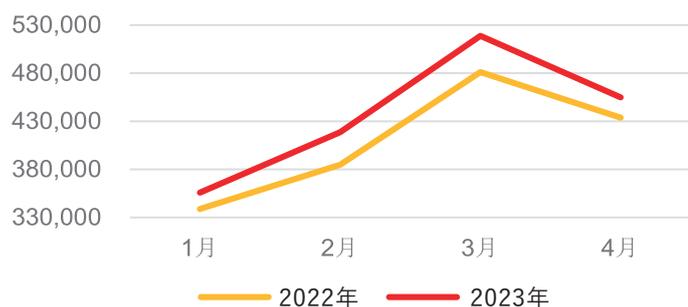
次にオークション会場への使用済自動車の流出を検証すべく、オートオークションの成約台数の推移をグラフにしてみます。 (図3)



【出典】一般社団法人日本オートオークション協議会(NAK)提供

年別で見ると、2020年は一時的に減少しましたが、2021年には持ち直し、**全体として大幅な変化は見られません。**次に2023年のこれまでにしているデータをグラフにしてみます。

【図4：2022-2023（1月-4月）
月別オートオークション成約台数（台）】



【出典】一般社団法人日本オートオークション協議会(NAK)提供

【図5】 (台)

	2022年	2023年	差
1月	338,836	355,831	+16,995
2月	384,833	418,712	+33,879
3月	481,122	518,793	+37,671
4月	433,697	454,854	+21,157
合計	1,638,488	1,748,190	+109,702

【出典】一般社団法人日本オートオークション協議会(NAK)提供

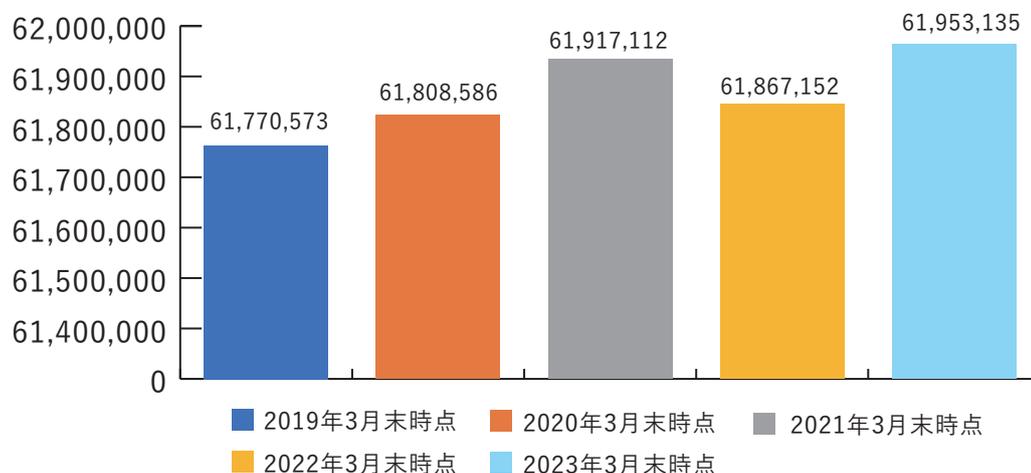
また、図4・5のとおり2023年の1月から4月を見てみると、各月とも全て前年を上回っており、4月の時点では2022年よりもプラス10万台程度と、このペースでいくと2023年は年間30万台程度前年から増加するという計算になり、2019年の数字を上回る可能性も考えられます。

【ステップ⑤：自動車保有台数の推移】

参考までに自動車の保有台数の推移（図6）を見てみます。

こちらは乗用車のみ、各年3月末時点の数字となりますが、2019年3月末時点と比較して、2023年3月末は約18万台増加しています。ただし、2019年の3月以前のデータを見ると毎年数十万台ずつ増加して最高記録を更新しているため、この18万台の増加は何かの理由によるものではなく、従来の流れに沿ったものと推測され、ELV減少の要因として考えるにはこのデータだけでは分かりません。

【図6：年別自動車保有台数の推移（台）】



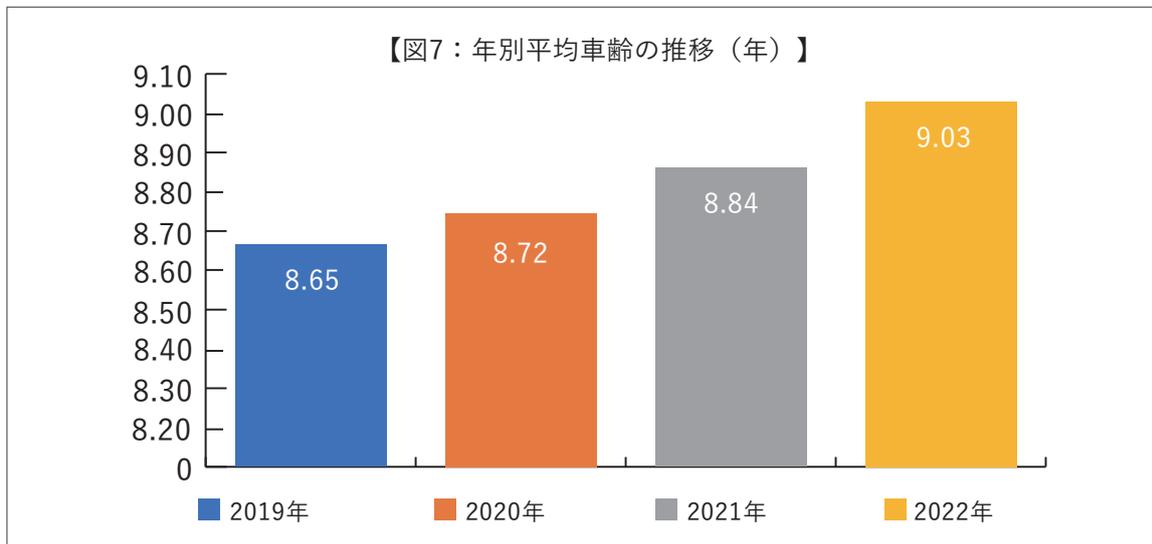
【出典】一般財団法人自動車検査登録情報協会HP

【ステップ⑥：平均車齢の推移】

次に乗用車の平均車齢（軽自動車を除く）をグラフにしてみます。（図7）

平均車齢は国内でナンバープレートを付けている自動車が初度登録してからの経過年の平均で、新車販売台数が減少し、自動車が長く使われると上がり、逆に新車販売台数が増加し、ELVや海外輸出が増えると低下します。

2019年以前も平均車齢は（基本）毎年過去最高齢の数値を記録しており、グラフのとおり、2019年以降も変わらず増加の一途であるため、ELV減少の大きな要因とは言い難いです。なお、2022年の9.03年も過去最高齢をマークしており、自動車の長期使用化が進んでいることが分かります。

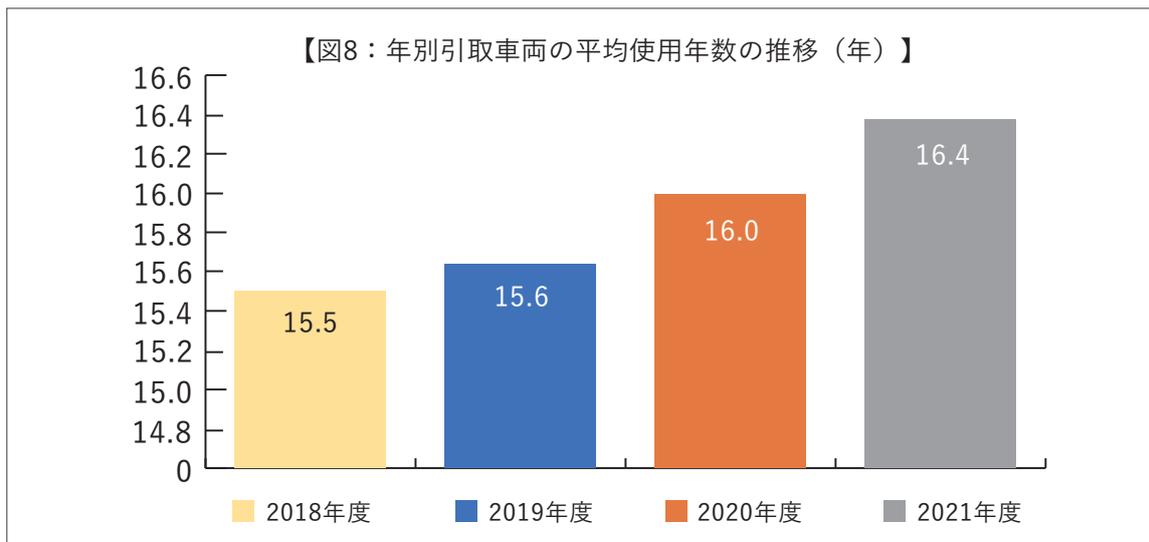


【出典】一般財団法人自動車検査登録情報協会HP

【ステップ⑦：引取車両の平均使用年数の推移】

次に引取車両の平均使用年数の推移を調査してみます。(図8)

こちらは登録車と軽自動車を含めた全体の数字となりますが、最新の2021年度は最高齢の16.4年となっております。ただし、ステップ6の平均車齢の推移と同じく、こちらも2018年度以前から毎年ほぼ同じ水準で増加傾向であり2018年度以降も急激な増加等は見当たりません。平均使用年数が増加することはELV減少の一つの要素ではありますが、**こちら大きな要因とは言い難い**です。



【出典】公益財団法人自動車リサイクル促進センター 自動車リサイクルデータBook 2021年度版

今回はこれまでのデータを整理してELV引取台数の推移を紐解いていきます（次号に続く）



■ 新規講習会

前号でご案内いたしました「2023年度自動車リサイクル士新規講習会」の**申込期限が迫っております!**

こちらは新たに自動車リサイクル士の資格を取得する方向けの年**1回限り**の講習会となっており、各試験会場には**定員数が設けられております**ので、受講をご検討中の方は**どうぞお早め**にお申込みください。

申込期間	2022年6月12日(月)～ 7月20日(木) まで ※当日消印有効
お申込みはこちらをクリック▶ https://www.elv.or.jp/35-87-0.html	

■ 更新講習会

既に資格をお持ちで今年有効期限を迎えられる方向けの「更新講習会」も申込受付中です。対象者の皆様には6月上旬頃に郵送にてご案内を発送しておりますが、万が一、お手元に届いていない場合は機構事務局までお問合せいただくか、機構HPでも公開しておりますのでご確認ください。なお、更新講習会の申込期限は**9月15日(金)まで**となっております。

ご自身が更新対象者かどうかはこちらの資格者一覧からご確認ください▼

<https://www.elv.or.jp/media/20/20230413-zirisilist20230413.pdf>

【お問い合わせ先】 JAERA 事務局 (担当: 京野) ■TEL: 03-3519-5181 ■Mail: jaera-homepage@elv.or.jp

各ブロック会議の開催結果

03

沖縄ブロック会議の開催結果

日時: 2023年5月28日(日) 場所: 沖縄市農民研修センター(対面・WEB)

2023年5月28日(日)に沖縄市農民研修センター(沖縄市)にて対面とWEBのハイブリッド形式で開催されました。松田支部長より機構の定時社員総会に向けて総会議案内容の説明があり、審議の結果、無事承認可決となりました。

また、現在申請を定期的に受付している「次世代モビリティリサイクラー制度」について、沖縄全島が網羅されることを目指し、改めて沖縄会員の方へ申請の協力依頼を行い、会議後半では、使用済自動車の受入れ状況や外国人の自動車リサイクル業者に関する情報、中古車オークションの入札について意見・情報交換が活発に行われ、閉会となりました。



【会議の様子】

北海道ブロック会議(北海道支部総会)の開催結果

日時: 2023年6月2日(金) 場所: センチュリーロイヤルホテル(対面)

2023年6月2日(金)にセンチュリーロイヤルホテル(札幌市中央区)で北海道自動車処理協同組合の第27回定期総会の後に北海道支部総会として開催され、機構本部からは酒井代表理事が参加されました。こちらも機構の定時社員総会に向けて総会議案の審議が中心となりましたが、全会一致で承認可決となり閉会しました。

また、総会後には講演会が開催され、株式会社集中力 集中力プロデューサーの森 健次朗様から「～世界の一流アスリートから学んだ～会社経営と人生経営で成功する方程式とは!」、経済産業省 製造産業局自動車課 自動車リサイクル室長の金谷 明倫様からは「自動車リサイクルを取り巻く状況」というテーマでご講演いただきました。



【会議の様子】

2023年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 5月出荷状況

05

上段：5月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	クラウン HV GWS204
27	4	37	0	0	45	0	0
38	12	87	0	0	114	0	0

クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A~C	合計
0	2	0	2	0	0	26	116
0	2	60	2	1	0	57	335

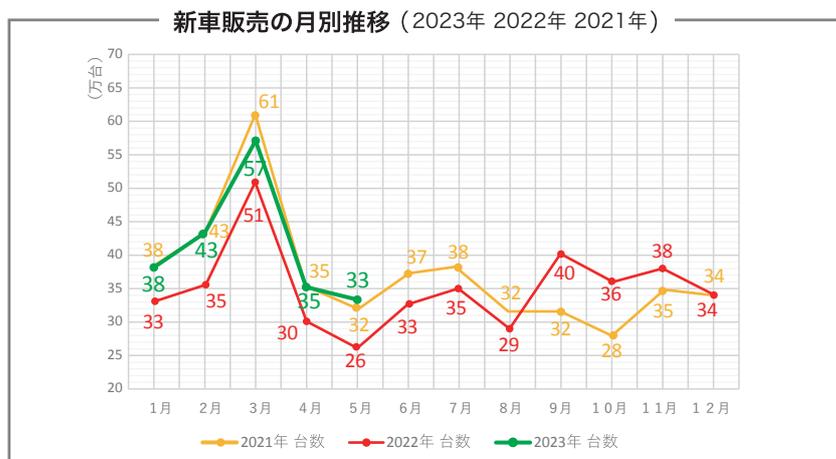
□2022年度の結果はこちら▶ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1853>

5月新車販売・使用済自動車発生台数

～5月の使用済自動車発生台数 前年同月比3%減～

06

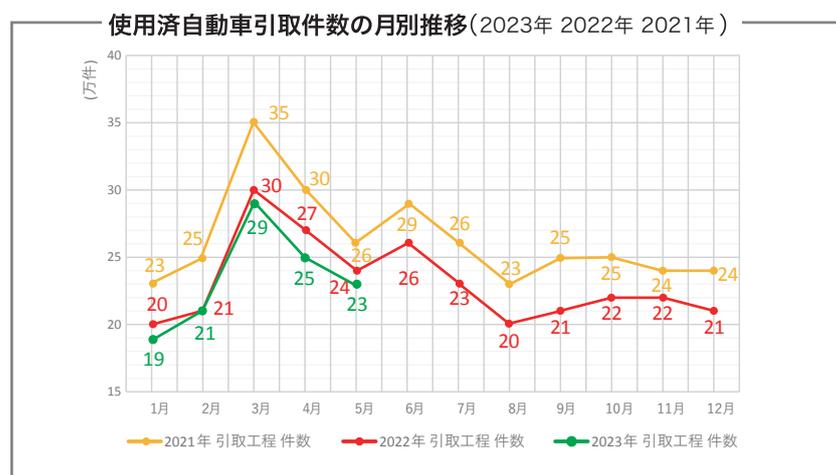
■2023年5月度 新車販売台数 326,731台 (前年同月比125.0%)



過去の自動車販売台数推移		
年累計	台数	前年比(%)
2023年	2,057,881	117.0
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

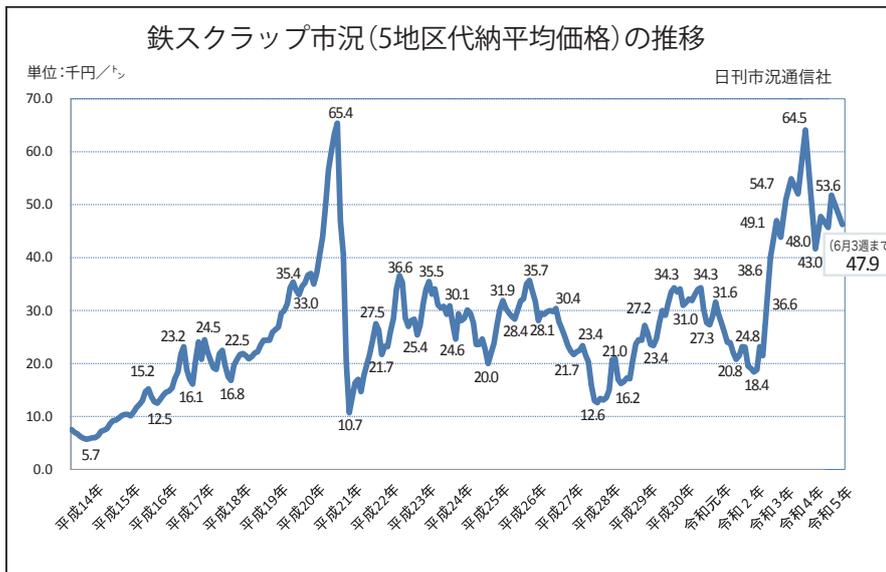
■2023年5月度 使用済自動車引取(電子マネーフェスト)実施状況



引取件数
229,414件 (前年同月比 97.0%)
フロン回収工程
205,517件 (前年同月比 96.9%)
解体工程
238,916件 (前年同月比 96.5%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

6月第4週(23日)の鉄スクラップ動向



6月23日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	48,500～49,500	堅調様子見
	南関東	48,500～49,500	堅調様子見
	浜値	48,000～49,000	堅調様子見
名古屋		47,000～48,500	堅調様子見
関西	大阪	49,500～50,000	様子見
	姫路	48,000～48,500	様子見

現代製鉄、日本産鉄スクラップ価格を据え置く 日本国内や他輸出よりも割安水準に

韓国・現代製鉄は6月22～23日に実施した日本産鉄スクラップの新規スポット入札で、23日朝にビッドを提示し、全品種とも前週(16日提示)価格を据え置き、H2を1トFOB・48,200円、H1&H2を同48,700円、シュレッダーを同52,000円、HSを同53,000円とした。需要が振るわず日本玉への引き合いを強めにくい環境が据え置きとした判断の背景にありそうだ。

現代製鉄は6月23日14時まで契約希望を募る。前回の交渉では、販売不振の環境下で日本側に価格を受け入れる動きがあり、一定の成約が進んだもようだ。

しかし今回は、日本のサプライヤーに現代製鉄のビッド価格を割安とする見方が多い。日本国内では需給タイト感が緩和せず相場がこう着している。関東湾岸でまとまった量のH2を集荷する際は「最低でも48,500～49,000円が必要」(船橋シッパー)といい、新規オファー価格は多くがFOB・50,000円を超えている。

日本玉輸出市場では需要家の引き合いがまだらながら、円安の影響もあり価格は強含んでいる。週半ばの台湾向けH1&H2交渉価格はCFR385 μ 、当時のレートで計算したH2FOB換算は50,500円前後になる。また、一部ベトナム向けの交渉値はH2CFR380 μ 水準にあり、FOB換算値は49,000円前後となる。

【関東地区】 堅調さ残し様子見 市中発生が低調

関東市場の鉄スクラップ市況は各地区とも様子見横ばいの推移となっている。ただ、市中スクラップの発生・荷動きが鈍く、需要家筋、市中間屋筋とも入荷にバラつきが見られる。また双方とも一部では低調な状況が続いているため、関東市場の鉄スクラップ需給に引き締め感があり、堅調さを残した相場展開となっている。H2炉前実勢価格は48,500～49,500円中心。H2浜値は48,000～49,000円中心で推移している。

【東海地区】 供給量伸びず需給緩みにくい環境

名古屋地区の鉄スクラップ市況は堅調様子見気配のまま6月も最終週へと向かう公算が大となっている。電炉生産は暦の関係や夏場の前倒しもあって5～6月は増加する傾向にあるが、今年も55万ト前後の底堅い生産を維持。一方で、発生は市中老廃物、工場発生物ともに回復が遅れており、慢性的な品薄状態が続く。また湾岸筋からの引き合いが増加、問屋筋の出荷が分散傾向にある。H2炉前実勢価格は47,000～48,500円中心。

【大阪地区】 入荷難を脱し上値重く様子見ムードに

大阪地区の鉄スクラップ市況は様子見ムードが強まっている。荷動きに殺到感のないまま6月末へ向かいつつも、一時期のような入荷難を脱しているほか、姫路地区の一部電炉による連続値下げや荷止め対応によって、府外流出にブレーキがかかり、地場還流がすすみやすくなり、上値を突き上げるほどの力強さはなくなりつつある。H2炉前実勢価格は、大阪地区が49,500円、一部高値50,000円、姫路地区が47,500～48,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、6月23日午後時点のもの)

行事予定

— 7月の主な行事予定 —

July

- 7月4日 (火)
 - ・ 第4回広報部会 (対面)
- 7月6日 (木)
 - ・ 第4回常任役員会 (WEB)
- 7月7日 (金)
 - ・ 近畿ブロック会議 (対面・WEB)
- 7月11日 (火)
 - ・ 第1回ブロック長会議 (対面・WEB)
 - ・ J-FAR (エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり) 定例会 (WEB)
- 7月20日 (木)
 - ・ J-FAR (樹脂リサイクル社会実装事業) 定例会 (WEB)
- 7月28日 (金)
 - ・ 東北ブロック会議 (対面)

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

お知らせ



機構公式Twitterを開設しました！

機構の公式Twitterアカウントを開設しました！ニュースレターの配信情報を中心に、今後は情報発信や投票機能を使った簡単なアンケートなどを行っていく予定です。

なかなか慣れないところもありますが…まずは気楽にボタンを押してみてください♪

フォロー

◆公式アカウント◆

<https://twitter.com/JAERAoffice>



編集後記

社長「今日の朝礼はこれで終わりますが、何か確認しておきたいことはありますか？」少しの沈黙の後、社員「特にありません」とあっさり答えます。折角社長は社員の手助けをしたり、アドバイスをしたいと考えているのにがっかりしています。

またある時、社員「社長、時間少しいいですか？」、社長「いいけど忙しいから内容によっては後でもいいかな？」今話をしたい社員と、なんとか話を聞きたい社長ですが、自分の予定を優先したいがために社員とのコミュニケーションの機会を遠ざけてしまいました。

またこんなことも、社長「この仕事早く取り掛かってくれないかな？」、社員（心の中で）「言われなくてもわかっていますよ」と反発気味です。このような会話はどの会社、組織でも実際にあるのではないのでしょうか。ちなみにこれらの話は全部私の会社で日常茶飯事の出来事です・・・。

この人手不足と言うか若手不足の中で、社員に“働きやすい環境をどう提供するか”を常に考えている経営者の皆さんが多いはずですが、設備はお金で整えられますが、上司と部下ともに思いやりを持った環境はお金だけでは整えることはできません。日々の仕事の中で、相手を思いやる一言がないばかりに、「この社長とは無理」「この社員では無理」と決めつけてしまう時もあるかもしれません。そうなる前に、何気なく使っている一言をちょっとだけみんなで見直しできたらと思っている今日この頃です。

(広報部会長 田村 幸男)